

## ▼ケタラール静注用 200mg・▼筋注用 500mg [注]

【重要度】 【一般製剤名】ケタミン塩酸塩 (U) ketamine hydrochloride 【分類】全身麻酔剤

【単位】▼静注用 200mg/20mLV, ▼筋注用 500mg/10mLV 【麻薬】

【常用量】■静注用：1～2mg/kg■筋注用：5～10mg/kg

【用法】1分以上かけて静注，筋注

【透析患者への投与方法】尿中未変化体排泄率が低いいため減量する必要はないと思われる (5) が腎不全患者では高血圧を来しやすいためあまり使用されない (11)

【その他の報告】不明 (3)

【保存期腎不全患者への投与方法】減量の必要なし (3,12)

【特徴】筋注でも静注でも投与することができる水溶性麻酔剤。皮膚、筋肉、骨の痛みに対し強い鎮痛作用を有し、手術に必要な無痛状態が得られるが、内臓痛に対する鎮痛作用は弱い。入眠時間が静注で 30～90 秒、筋注で 2～8 分と短い。血圧降下作用がなく、臓器毒性がなく、繰り返し投与可能なことが利点であり、覚醒が遅くせん妄、不快な夢を見たリ嘔吐があるのが欠点。血圧上昇作用があり、心拍数も増加する。熱傷患者のガーゼ交換等疼痛を伴う処置時の除痛にも用いられる

【主な副作用・毒性】徐脈、不整脈、血圧降下、過血圧上昇、痙攣、覚醒時反応(夢のような状態、幻覚、興奮、錯乱など)、消化器症状、発疹、皮膚紅斑、唾液分泌過多、発熱、発汗、興奮、めまい、口渇、頭痛、精神症状、悪寒、複視、眼振、眼内圧上昇など

【モニターすべき項目】心機能 (U)

【F】16% [im] (14) 16.5%、肝障害では上昇する (11)

【代謝】肝代謝 (U) 肝で demethyl 化され norketamine, 水酸化から dehydraton されさらに抱合体に代謝される (11)

【排泄】尿中未変化体排泄率 9% (14) 2～3% (12) 4% (U) 2% (11) 尿中回収率 90% (U,11) 糞便中は 4%以下 (U) 【CL】1.23～1.32L/min (11)

【t1/2】未変化体ケタミンの t1/2 は 4hr (1) 3hr (14) α相：7～11min、β相：2～3hr (U) 2.0～3.5hr (12) 【腎不全患者の t1/2】腎機能正常者と同じ (12)

【蛋白結合率】20～50% (11)

【分布】脳を含む組織に急速に分布する。動物では脂肪組織、肝臓、肺に高濃度で分布する (U) 214～347L/body (1) 2L/kg (14) 1.8～3.1L/kg (12)

【MW】274.19

【透析性】Vd が大きいため透析で効率的には除去されにくいと考えられる (5)

【TDM のポイント】有効治療域 0.7～3 μg/mL (14) TDM は一般的に実施されていない。R(-)ケタミンは S(+ )ケタミンの消失を阻害する (Ihmen H et al :Clin Pharmacol Ther 70:431-438,2001) 【pKa】7.5 (1)

【効果発現時間】静注投与した場合 30sec～1min、筋注投与した場合 3～4min で手術可能な麻酔状態が得られる。

【効果持続時間】静注：5～10min 前後、筋注：12～25min 前後

【更新日】20180711

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、

直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。